

【都道府県学体連紹介】

全京都学校体育研究連合会

京都では、国公立・私立学校園の学校体育に関わる研究団体が、京都府教育庁指導部保健体育課と京都市教育委員会体育健康教育室からの指導・助言を受けながら、下記のような事業を通して日本学校体育研究連合会や全国学校体育研究大会に関わる情報交換や各研究団体間の情報交換を行っています。

全京都学校体育研究連合会では、加盟している全研究団体が参加する研究大会等の定例事業はありませんが、研究大会や研修会に関する校種ごとの情報交換や関わりは多く、特に、平成19年度の第46回全国学校体育研究大会京都大会の際には、幼稚園の研究団体も含めた研究の取組を進め、その後の京都の園児・児童・生徒の体育・保健体育教育の充実に寄与してきました。

1 名称及び所在地

本会は、全京都学校体育研究連合会という。(以下本会という)

本会の事務局は、京都府教育庁指導部保健体育課内におく。

2 目的及び事業

本会は、本会を組織する学校体育研究団体の連携促進を図るとともに、学校における体育活動ならびに体育研究活動に必要な援助を行い、あわせて学校体育指導者の資質向上を図り、もって学校体育の進行に寄与することを目的とする。

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学校における体育活動及び研究調査ならびに研究活動の助成
- (2) 全国学校体育研究最優秀校・優良校・功労者の表彰候補の推薦
- (3) 学校体育研究諸団体との連絡・研究交換
- (4) その他本会の目的達成のために必要な事業

3 組織

本会は次の4団体をもって組織する

京都教育大学教育研究交流会議体育保健体育分科会

京都府学校体育研究連合会

京都市立学校園体育研究会連盟

京都府私立中学高等学校連合会保健体育研究会

4 役員

本会に次の役員をおく。

会長 1名 副会長 1名 理事 1名 庶務会計 1名 監事 4名

本会の役員を選出は、次のとおりとする。

(1) 会長は、2年ごとに、京都市立小学校・中学校で交互に持つ。

副会長は、京都市立小学校長が会長の場合、府中教研保健体育部長が持つ。

京都市立中学校長が会長の場合、府小研体育部長が持つ。

(2) 理事は組織団体ごとに選出する。

(3) 庶務会計は事務局が担当する。

(4) 監事は、組織団体より1名選出し、会長が委嘱する。

【平成 28 年度全国学校体育研究優良校紹介】

健やかな心と体を育てる健康教育のあり方
～主体的な健康づくりに向けての取組～

京都市立淳風小学校 校長 林 まゆみ

1 学校教育目標

「夢に向かって、歩み続ける淳風の子～自ら学ぶ意欲を高め、自律心と共に生きる力を育む～」

○自ら学ぶ子 ○あいさつをすすんでする子 ○ありがとうの気持ちを大切にする子

2 学校保健目標

「自分の体や心に関心を持ち、進んで健康な生活を実践できる子どもを育てる」

3 研究主題

「自ら健康や安全について考え、豊かな心と健やかな体をつくる子どもの育成」

今年度いよいよ閉校の年となり、「ありがとう淳風」というテーマで様々な角度から取り組み、子どものコミュニケーション力を高め、「自己肯定感」の向上と「自律心」を育てていきたいと考える。統合後、新しい環境で、より大きな集団の中でも、子どもたちが、自分の思いを的確に表現し、主体的に判断し、行動できるように取り組んでいきたい。特に、統合後の教育構想の一つでもある「児童による体力向上プロジェクトの推進」の取組について、本校で平成 23 年度より研究し続けてきた体育科の研究で大切にしてきたことを引き継いでいきたいと考える。「自ら考えて実践する」「生涯に亘って自分の健康の保持増進に取り組む」ことのできる、自律的な健康づくりに取り組むことは、「生きる力」を育むことにつながる。全教職員で子どもたち一人一人に丁寧にかかわり、学習や生活を支える基盤としての健康教育を推進していきたい。

4 具体的な取組

(1) 体育科を中心とした授業研究

① 淳風スタンダードの作成（器械運動・ボール運動）

特に今年度は、6 年間の系統性をもって、研究する。

ゴール型のボール運動領域に取り組み、低学年では、「宝運びゲーム」3～6 年生は、「タグラグビー」を取り入れる。

そのために、年度初めに、理論・実技研修会を実施し、タグラグビーの特性、タグラグビーの楽しさや指導のポイントについて研修する。

② ICT 機器（タブレット）の活用

昨年度まで、器械運動領域を中心に、ラグミラー等アプリを活用して、技をした後に、タブレットに写された連続した映像を見ながら、自分で技のできればえを確認したり、グループでアドバイスをし合ったりした。また、ボール運動領域では、作戦タイムにホワイトボードを使って考えた作戦をタブレットで撮影して、保存し、次の作戦を立てるときに活用したり、最後の振り返りの場面で、指導者が撮影しておいた動画を見ることで、視覚的に、動きの良かった点を全体で共有したりすることができた。今年度も、新しい種目の学習の中で、効果的にタブレット等端末を活用していきたい。

平成 23 年度：器械運動
平成 24 年度：器械運動、ボール運動
平成 25 年度：器械運動、水泳
平成 26 年度：保健・器械運動
平成 27 年度：保健・ボール運動
平成 28 年度：保健・ボール運動

(2) 子どもの主体的な体力向上の取組について

体力の 2 極化という本校実態より、外遊びを推進し、楽しみながらもっとやりたい、もっと遊びたいという子どもの意欲を高め、体力づくりをしていく。

① なわとびプロジェクト（「ありがとう淳風」の取組：みんなで一つのことに挑戦しよう）

- ・毎朝 8：20～8：30、全校なわとび世界一周の取組：各学年の色のシールを、100 回跳べたら一つ貼る。なわとびチャレンジカードの作成、なわとび検定に挑戦、高学年でのダブルダッチの取組



② 遊びプロジェクト

- 遊びの紹介：子どもに伝えたい遊びを体験的に研修し、まずロング昼休みでの学級みんな遊びや体育科の体ならしに取り入れていく。
- 週1回ロング昼休みの活用、学級遊びを中心とした外遊びの取組
- 外遊びを推進する遊びの環境づくり：ドッチビー、スマイルボール、ラグビーボール、ケンパ、一輪車、竹馬、しっぽとり、なわとび、大なわ等



遊びの紹介掲示物



ケンパでドンじゃんけん



クラスで大なわとび

③ 児童会中心とした自主的な活動

ア 集会委員会の取組

- 月1回、ロング昼休みを利用したたて割り遊びの取組
- なわとびプロジェクトと連携した大なわ大会の実施

イ 健康委員会（児童）の取組

- ロング昼休みを利用して、健康にかかわるクイズ大会実施
- 歯のポスター作成や、朝会を利用した歯みがきの定着にむけての働きかけ
- 給食終了5分前の全校歯みがきタイムでのオリジナルソング作成



全校たてわり遊びでしっぽとり

(3) 心の健康に着目した取組（ほっとタイム）

- ① 年間計画を作成し、ストレスマネジメントやソーシャルスキル等グループワークを取り入れた授業等の実施（6、10、2月：学級活動で、ソーシャルスキル、ストレスマネジメント学習）
- ② 毎週月曜日の朝：ボディトーク・不安にうまく対応するスキル（認知行動療法より）
- ③ 長期休業明けの朝の会等：構成的グループエンカウンターを取り入れたエクササイズ実施
- ④ ほっとタイムを進めるにあたっての視点の共通理解、チェックシートの活用
- ⑤ ほっとタイムの校内授業研究：学級活動（スクールカウンセラーのアドバイスを受けながら）2・3・5年（指導助言：体育健康教育室指導主事）
- ⑥ ほっとタイム実施に向けての教師の力量向上のための校内研修実施：ボディトークの実技研修、不安にうまくつきあうためのスキルについての研修（認知行動療法、高橋Dr.）

(4) 歯の健康に向けての取組

- ① 全校一斉に歯みがきタイムを給食時間の終了5分前に音楽を流して実施
- ② 歯みがき巡回指導（6月：1、2年 10月：6年）
- ③ 個別の歯みがき指導（保健室で、歯の汚れのチェックを受けた児童への指導）、保護者への担任より個別に連携して受診促す
- ④ 毎月「ほけんの日」に保護者に呼びかけ、「親子歯みがきタイム」の実施、家庭への働きかけ特に、6月にはテスターを使用しての親子歯みがき

(5) 基本的な生活習慣の定着に向けての取組

- ① 長期休業明け（1週間）のアンケート（いきいきカレンダー）により、不規則な生活になりがちであった生活習慣を戻す、
- ② 4月、2月に生活習慣に関するアンケートを実施。子どもの実態把握、年度末に再度アンケートをとることで、1年間の取組の成果を検証する。